

## 3) フードバレーアグリビジネスセンター [H26 年度]

## ～全ての木材に認証木材を使用～

## 【施設の特徴】

農業支援の拠点施設であるフードバレーアグリビジネスセンターでは、木材は全て認証木材（P21 参照）を使用しています。木組は大段面集成材ではなく無垢の杉、桧材での木組の構造を基本とし、伝統的な仕口・継手も活用し強固な木造建築となっています。柱も4本、3本、2本組柱となっており、県内の流通材の利用を考慮した計画となっています。



(建物外観 (手前事務棟・後方研究棟))



(建物内観 (空間全体の木質化))

## 【フードバレーアグリビジネスセンターの概要】

所在地：八代市鏡町

(農業研究センター一業研究所敷地内)

構造・階数：[オフィス棟] 木造 2階建て  
[研究棟] 木造 平屋建て

延べ面積：1,134.02 m<sup>2</sup>

建築主：熊本県

設計・監理者：風+丸岡共同企業体 (建築)  
(株)本田設計コンサルタント (設備)

施工者：(株)藤永組 (建築)  
新熊本電気設備(株) (電気)  
日栄工業(株) (機械)

使用木材数量：379.3 m<sup>3</sup>使用  
(杉 365.5 m<sup>3</sup>、桧 13.8 m<sup>3</sup>)

## 【木造設計アドバイザーの実施内容 (全4回)】

**第1回** 材料の規格や調達期間等の木材供給体制の事項に加え、木材強度については、県内のスギ材は E50 が多く (E50 とは JAS の構造用製材機械等級区分で、木材の強度と相関が高いヤング係数に基づくもの、E50～E150 まで6段階ある)、構造計算上 E70 が必要な場合は早めの調達が必要となることや、森林認証については認証材の流れが確定されていない状況等の情報提供が行われた。

**第2回** 熊本地区支援学校のモックアップ (木組等の実物大試験) を見学。木材の使い方について問題点等の検証を行う。また、肥後木材にて、規格品 (流通品) とプレカットを見学。工期を短縮出来る機械加工の内容を把握した。

**第3回** 木工事特記仕様書について森林認証材は原則的に JAS の基準に適合するもの、含水率 20%以下、検査方法、金物、仕口詳細図の明記等のアドバイスを受ける。

**第4回** 設計事務所算出の木材元拾い表より木材の数量、規格、仕様の確認を行った。木材が必要になる時期の確認 (H26.12) や、今回使用予定の木材が流通している規格となっているかの確認。また構造材の仕様を JAS 目視等級区分2級とし、杉材は E70、桧材は E90 とする確認を行った。

## 【設計者の感想】

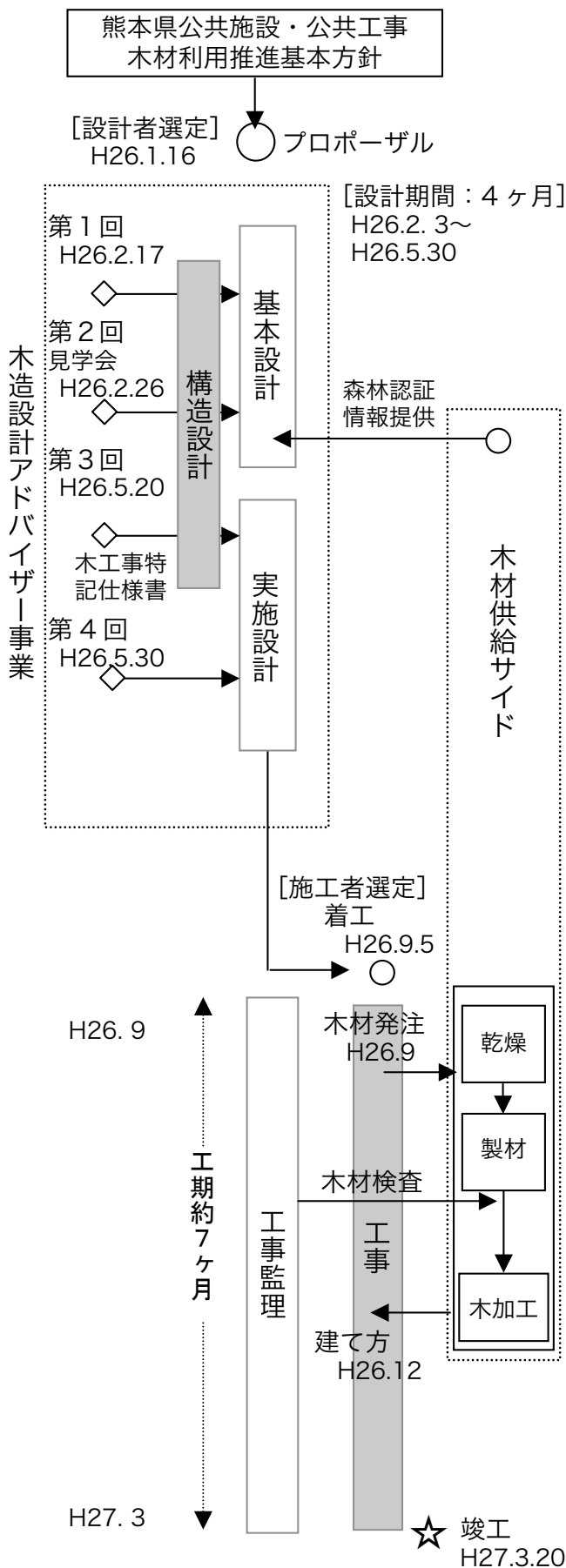
森林認証について詳しい情報やアドバイスがあり大変役立った。今回は認証木材を使うのがポイントだったので、熊本県内の木材事情が解るのが良かった。木造設計アドバイザー制度



最大のメリットは、川上から川下まで全体で木材の話を聞けること。その情報量を元にした設計であったからこそ、施工での木材調達もスムーズに出来たのではないかと。ただ、アドバイザーに頼りきるだけでなく設計者自身、もっと木造の知識を身につけていかなければいけない。

設計担当者：(有)風設計室 坂田一幸氏

【事業の流れ】



【工事における木材供給】

木工事契約は工事着工後速やかに行われ、森林認証構造用製材の製造が開始された。木造設計アドバイザー制度により、木材の規格長さや4本のだき柱等流通規格材を活かした設計と森林認証材の流通量の把握等が成されたことが短期間での製材確保に繋がった。

森林認証産地：多良木町森林組合  
くま中央森林組合  
五木村森林組合  
小国町森林組合 他

製材：幸の国木材工業  
小国ウッディ  
松島木材センター  
立山製材所  
佐藤林業  
林田製材

乾燥：幸の国木材工業  
熊本モルダー加工事業  
小国ウッディ  
松島木材センター

加工：ウッディファーム  
熊本ランベックス  
芋生工務店



(森林認証木材)



(木材検査)